

PRESS RELEASE

2022年2月2日
株式会社 池田模範堂

【 研究成果 】
おできなどの外用剤開発に応用可能な
「クリーム剤の角層溶解効果の評価方法」を確立

株式会社池田模範堂（本社：富山県上市町、代表取締役社長 池田嘉津弘）は角層溶解効果をクリーム剤で評価する手法を確立し、第72回日本皮膚科学会中部支部学術大会*で発表しました。

おできなど毛穴に膿や皮脂が溜まる疾患では、外用剤による角層溶解（毛穴の角層を取り除くこと）が、膿などの排出を促すことにつながり、より早い症状の改善が期待されます。今まで、クリーム剤のこのような角層溶解効果を簡便に評価する方法は確立されていませんでした。今回、当社において検討を重ね、新しい評価方法を確立しました。この方法はおできなどを治療する外用剤の開発に応用することができます。

当社は虫さされ薬だけでなく、様々な肌トラブルに着目した研究を続けています。研究成果を商品開発に応用し、多くのお客様のお肌の悩みを解決する一番手商品をお届けしてまいります。

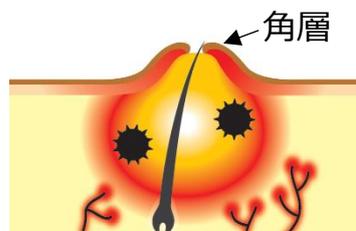
*皮膚科医を中心とした皮膚科学関係者により年に1回開催される学術研究の発表の場。

本年度の参加者は1000人以上

おできの写真



おできのイメージ図



角層溶解剤により、膿などの毛包内容物が減少することで痛みが収まる

おできは医学的には”せつ”と呼ばれ、毛穴に雑菌が感染し膿が溜まった状態になる病気です。この膿が痛みの神経を圧迫し、痛みが引き起こされます。

【 研究の成果 】

今回の研究成果はクリーム剤の持つ角層溶解効果の簡便な評価方法の確立です。

- ① シート状の角層を用い、このシートを壊す効果を角層溶解効果として評価しました。この実験は皮膚でクリーム剤が作用する環境を疑似的に再現しています。
- ② 角層シートに付着したクリーム剤を角層に影響を及ぼさない溶媒を用いて除去することで、目視での評価を妨げない工夫も行いました。クリーム剤が角層シートに付着したままの場合、図 1(②)の様にクリーム剤で溶液が濁り、角層シートが見えなくなります。一方で不適切な除去方法では、除去操作自体でシートが壊れる恐れがあります。
- ③ 角層溶解効果を、角層がばらばらに壊れた割合で評価しました。この実験方法の検討過程でジフェンヒドラミンサリチル酸塩に高い角層溶解効果が認められました。そこで、この成分を配合したクリーム剤と配合していないクリーム剤で効果を比較した結果、ジフェンヒドラミンサリチル酸塩配合クリーム剤の角層溶解効果が高いことが確認できました(図 2)。

この方法の確立により、クリーム剤の持つ角層溶解効果を簡便に評価することができ、おできなどの外用剤の開発への応用が可能になります。

図 1 実験イメージ

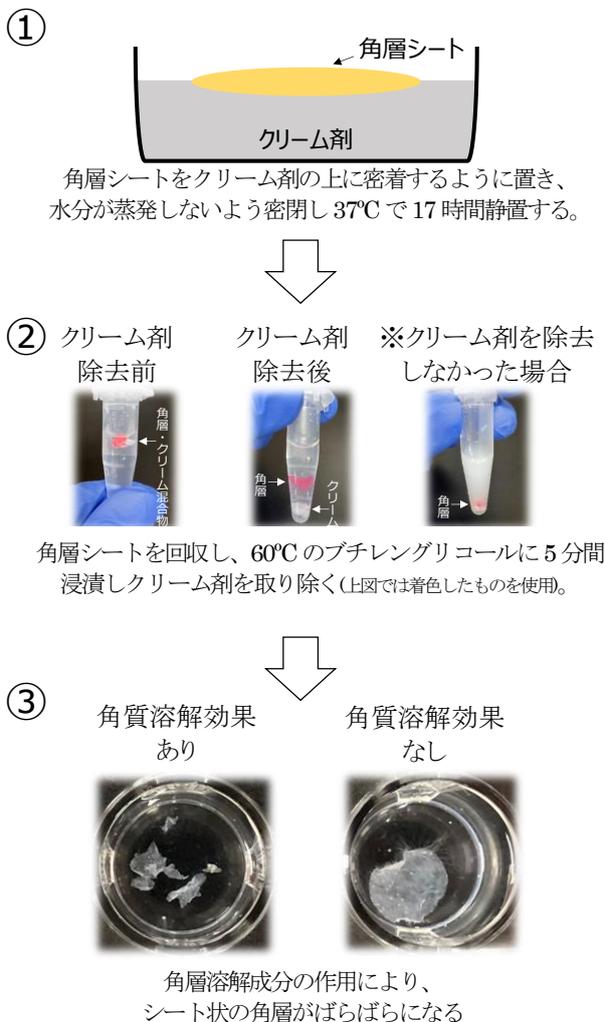
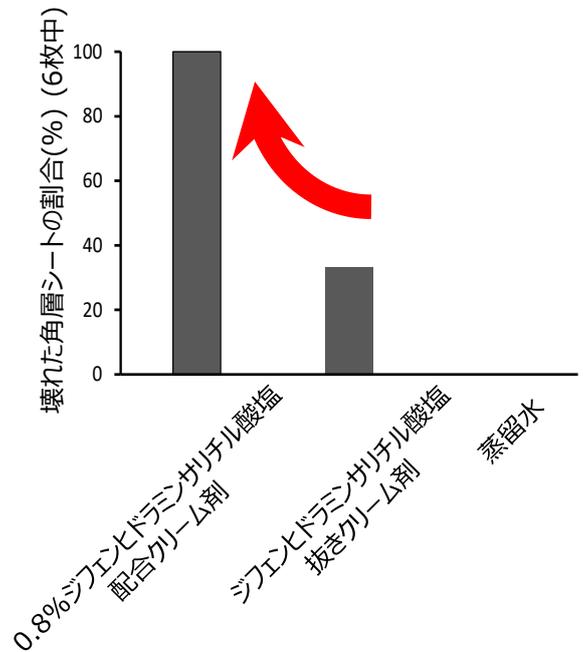


図 2 成分の有無による角層溶解効果の違い



＜本件に関するお問い合わせ先＞
 株式会社池田模範堂 総務グループ 山岸 / 異
 電話：076-472-1133 (本社代表)
 FAX：076-472-0092
 本社：富山県中新川郡上市町神田 16 番地
 URL：https://www.ikedamohando.co.jp/

肌を治すチカラ
MUHI